

自民党の勉強会で沖縄県の地元紙など報道機関に圧力をかけて言論を封じようとの議論が出た問題で、沖縄タイムスの石川達也編集

局次長、琉球新報の松元剛編集局次長が、それぞれ共同通信に寄稿した。

自民勉強会発言 沖縄2紙が寄稿

県民と共に立ち向かう

沖縄の米軍基地問題には、民意が反映されない不条理が幾重にも連なる。沖縄の新聞は常に「誰のために何のために書くのか」という命題を突き付けられている。自民党内での会合で作家の百田尚樹氏が「沖縄の二つの新行場について」「もともと田んぼの中についた」「商売のために住民が基地周辺に住みだした」と述べた。これは沖縄の基地問

前、「じのーん」と呼ばれた。現在の飛行場敷地内には10の集落と役場、郵便局があり、9千人を超える人々が豊富な泉を生かして田畠を耕した。各集落の子どもたちは、国の天然記念物にも指定された松並木を抜け、うやふあーぶじ（先

権力に「ノー」言う使命

祖）が眠る墓を通り、国民学校で勉強に励んでいた。そんな人たちの当たり前の営みを一変させたのが沖縄戦だ。追いやられた住民は収容所から戻った後も海岸側へと居を移された。中にはほぼ全域を基地に接収された集落もある。それが今の普天

間飛行場である。先祖から受け継いだ土地の近くに住みたいという思いはどうでも同じだ。原発に避難生活を強いられる福島の住民にも通じる。

「周りは何もなかつた」。史実を顧み、言論の自由を守るべき作家とは思えぬ発言には開いた口が、ざわざわしない。何よりも深刻なのは、表立って

言えない自身の考え方を作

家に代弁させた自民党の

若手国會議員である。

安倍晋三首相に近い議員たちの考えは、安全保

障関連法案への風当たりが強まる中、政権の意に沿わない報道への明らかな弾圧でしかない。底流

には数の論理で反対意見を封じ込めようとする政

権そのものの本質が見え

ていく。絶対的な権力を封じ込めるようにしてはいけない」と

「言論の自由」への挑戦であり、本土メディアも

報道の苦難の戦後史への無知と無責任、傲慢

で危険な思考回路がぐつ

きり照らし出された。国会で謝罪を拒んだ首相自

身の認識も厳しく問われている。

はやし立て、多くの議員が同調した事実は消せない。沖縄の苦難の戦後史

が世論調査の度に反対が容認できない。

批判を許さない狭量と

独善が民主主義を壊し、

全体主義に行き着くこと

は歴史が証明している。

百田氏と議員の発言は、

報道機関全体に対する重

大な挑戦であり、断じて

いただく。

勉強会があつた同じ日、政権に批判的な文化を招いたハト派の会合が党幹部の判断で延期されたという。異常なまでに不安を口にする。

沖縄タイムスの先達は戦後、二度とこの地で住民を戦争に巻き込ませない、それにつながるベンチを取らないとの思いで新

聞を発刊した。普天間や

新基地建設作業が進む名

護市辺野古で今、何が起

きているのか。安保法案

が県民、国民生活に何を

争に突き進んだのは、政

もたうすのか。報道機関

はそれをしっかりと見据

え、時に権力に対し「ノ

ー」を言う使命がある。

5月にあつた辺野古へ

の新基地建設に反対する

集会。沖縄県知事は島言葉で「うちなーんちゅ

うしえーてい ないびら

んどー」と訴えた。本人は「沖縄県民をないがしろにしてはいけない」と

和訳したが、「うし

えーい」には「ばかりに

するな」の意が込められ

ている。(石川達也・沖

縄タイムス編集局次長)

戦争遂行を後押しした沖縄の新聞は戦後、その根柢が増幅し、名護市辺野古への新基地建設は一層困難になっている。

これを機に沖縄の新聞の使命を再確認したい。

百田氏は米軍普天間飛行場について「もともとそこは宜野湾の中心地で

あり続けたのである。

自民党は4人の議員を

批判を許さない狭量と

独善が民主主義を壊し、

全体主義に行き着くこと

は歴史が証明している。

百田氏と議員の発言は、

報道機関全体に対する重

大な挑戦であり、断じて

いただく。

読者の負託に応え、県

民と共に基地の弊害に立

ち向かい、民主主義と報

道の自由を守る。私たちの使命を全うしていきたい。(松元剛・琉球新

報編集局次長兼報道本部

思惑通りに基地問題が進展しないと、沖縄の新規批判にすり替え、民主主義の手立てを尽くして基地押し付けに抵抗する沖縄の民意を矮小化する意図を許してはならない。

世論調査の度に反対が容認できない。

7割を超える県民世論を土台に、新基地建設にあ

らがう報道を展開してい

る。地元紙として当然の報道姿勢であり、譲れな

い一線である。

自民党内には「県民を

マインドコントロールし

ている」という声もある

が、県民に判断能力がな

いと見下すに等しい暴論

だ。そんなおじりがあつ

たなら、沖縄の新聞はどう

つくに県民に葬り去られ

たからだ。あの暗い時代に戻ってしまったのでは

と不安を口にする。